

研究機関：広島大学

研究課題名 一時保護所入所児童の口腔衛生状態および生活習慣に関する研究

研究責任者名 広島大学大学院医系科学研究科小児歯科学 助教 新里 法子

研究期間 2021年10月28日倫理委員会承認後～2028年3月31日

対象者

2009年7月から2027年3月の間に、広島県内の一時保護所に入所し、歯科健診およびアンケート調査を受けられた児童。

意義・目的

児童相談所に保護された児童の健康状態や口腔内環境が一般児童と比較して悪いといわれていますが、その程度やその他の要因との関連についてはまだ明らかにされていません。今回、一時保護所に入所した児童の歯科健診や生活習慣アンケートを行い、その結果を解析することで、児童虐待の有無や家庭環境の悪化と、児童の口腔内状況や生活習慣との関連を明らかにするため、この研究を計画しました。

方法

本研究は、歯科健診や生活習慣についてのアンケート結果を用いて行います。

健診結果から使用する内容は、年齢、性別、虫歯の本数、虫歯リスク検査や細菌数検査の結果などです。アンケートから使用する内容は、おやつや歯みがきの回数、歯科受診習慣、よく飲む飲み物、食事の量などです。

(個人を特定可能な情報は解析に用いません)

試料・情報の提供機関

広島市児童相談所、広島県西部こども家庭センター、広島県東部こども家庭センター

情報の管理責任者

広島大学 准教授 光畑智恵子

個人情報の保護について

調査内容については、プライバシー保護に十分留意して扱います。一時保護所の所長から同意を取得した上で、歯科健診や生活習慣アンケートなどの資料の提供を受けます。資料は一時保護所に